

池田小学校 総合的な学習の時間

川西 諒

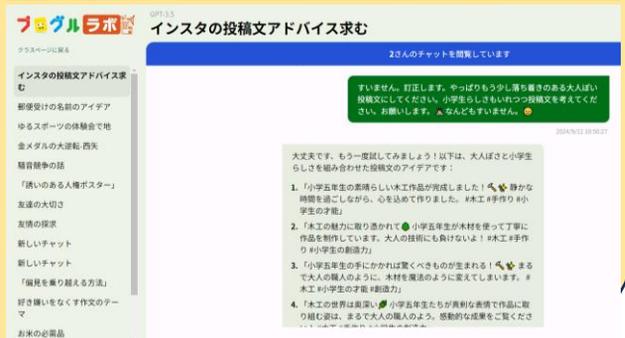
対象	第5学年 梅組	単元	木工製品を開発しよう（8／30時間）
本時の目標	多くの人に自分の投稿に興味をもってもらうための工夫を考え、他者の意見や生成AIを取り入れながら、投稿内容を作成できるようにする。（思考・判断・表現）		
教師のICT事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○インスタグラム、Canva、スプレッドシート、プログルラボ（生成AI） ・スプレッドシートで、単元を通しての振り返りシートや投稿内容を記入する。 ・Canvaやプログルラボを用いて投稿内容を作成する。 ・インスタグラムへの投稿を継続的に行う。 		

I ICT活用のポイント

学習環境の変化により、学び方を改革する

一斉型の授業から脱却するためには教室環境の改革が必要である。本学級では教室に5カ所スクリーンを設置し、児童のタブレットの画面をいつでも映し出せるようにしている。これにより、少人数グループでの話し合いやプレゼンテーションが可能になると考える。また、机を円形に設置することで自然と対話が生まれることを期待している。

本時は生成AIを活用する。児童はこれまで生成AIを文章の作成や添削、アイデア出しなどで活用してきた。便利であると感じる一方で、自分の考えと異なる文章を生成されたり、意図とは異なる編集をされたりする経験を通じて、生成AIの活用には難しさがあることも理解してきた。今回はインスタグラムの投稿文を考える場面で生成AIを活用する。生成AIに対するメディアリテラシーを高めるとともに、生成AIを活用することで思考が広がることを期待している。



SNSを活用した探究的な学び

「どのような投稿をすれば『推し』になってもらえるだろうか？」という問いを設定し、インスタグラムの投稿内容を自分で考えたり、話し合ったりする活動を行う。一人一人が自分の開発している木工製品を紹介するため、主体的な発信活動が期待される。

SNSの運用はこれからの社会を生き抜いていくうえで必要不可欠な力となる。さらに、相手を意識した投稿文や映像作りは、言語能力や情報活用能力を高めることに繋がると考える。加えて、SNSの即時的なフィードバックは個人に新たな問いを生み出し、探究的な学びを実現できると考えている。



https://www.instagram.com/ikeda_05/

2 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習の流れを確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回までの自分の投稿をチェックする。 ② 自分の投稿のこだわりを確認する。 ③ 投稿する文や映像を作成する。 ④ 友達と検討するための話し合いを行う。 ⑤ 振り返り。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小単元の問いを確認する <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>どのような投稿をすれば「推し」 になってもらえるだろうか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ① 前回の自分の投稿や友達の投稿から、どれくらいの人に興味を持ってもらえているか確認する。 ② 次の投稿はどこを工夫してこだわるかを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の目的や単元のゴールを振り返ることで、発信の意義を再確認することができるようにする。 ・ 過去の投稿の閲覧数やいいね数などを確認させることで、自分の投稿についてフィードバックすることができるようにする。 ・ 発信の継続性の大切さを再確認することで、見通しを持った活動ができるようにする。 ・ 本時の流れとともに、望ましい姿を提示することで、目的をもって活動に取り組むことができるようにする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ③ 次の自分の投稿を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声で解説を入れる。 ・ 写真の色合いを調整する。 ・ 投稿文をしっかりと書き込む。（生成AIを活用） ・ 写真や動画を撮影する。 ・ たくさん投稿数を増やす。 ・ 動画の長さを調整する。 <ul style="list-style-type: none"> ④ 新しい自分の投稿内容をプレゼンし、友達と内容を吟味しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々のこだわりを賞賛することで、オリジナリティの重要性を理解できるようにする。 ・ 活動に困り感のある児童には積極的に他者参照を勧める。 ・ 投稿文の作成には生成AIと対話させることで、生成AIとの協働の重要性を理解することができるようにする。 ・ クリティカルな視点で友達の投稿のプレゼンを聞くように伝えることで、話し合いを深めることができるようにする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 今日の自分の学びを振り返る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>S：こだわりを持ちつつ、他の投稿や友達の意見などを参考に、自分の投稿内容を工夫することができた。</p> <p>A：自分のこだわりをもって投稿内容を作成することができた。</p> <p>B：自分で投稿内容を作成できた。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の振り返りから児童の学びを見取り、望ましい姿を賞賛する。

授業者より

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためには「問い」と「場の設定」が最重要だと考える。答えが1つとは限らない「問い」は児童の主体的な学びを促進するだろう。さらに、対話を促す機の配置や思考ツールの活用、複数ディスプレイで自分の考えをすぐに表現できる環境が整えば、自然と児童の学び方は変わるはずである。1時間ではなく、単元を通して児童が探究的に学んでいけるようなカリキュラムの設計をすることが、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実における基盤となると考え、研究を進めている。